



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

年が変わり、既に金屋町は開町401年に入っていますが、昨年実施した開町400年記念イベントをもう少しふり返ってみたいと思います。昨年12月号では伊東教授の記念講演を取り上げましたが、今回は記念フォーラムでの上野教授の発言を以下に記してみます。

## 金屋の町づくりに期待する

富山職芸学院 上野教授

開町400年記念フォーラムから

瑞龍寺復元に高岡へ来たことが、金屋町との縁の始まりでした。金屋町の第一印象は「すごいな！」であり、重伝建に選定されていないことが不思議でした。商業地化せず、住民が生活している、そんな雰囲気を残して欲しいと思う。もう一つは、せっかくの素晴らしい景観を全国の人に見てもらい、自分と同じ感動を感じてもらいたいと思いました。



海外からユネスコのお客様を迎えた時に、五箇山の世界遺産や瑞龍寺と共に金屋の町並みを案内した。公園の駐車場からあえて細い道を通り金屋の町並みへ出ると、突然わっと伝統建築の町並みが目に飛び込んでくる。そういうアプローチの演出も大事だと思う。彼等は伝統建築や散居村に、日本の原風景としてとても興味と感動を示す。漆塗りの天井は、金屋町では当たり前と思われているが、一般的にはそうでない。ハードだけでなくソフト面でも、独自の伝統文化がある。

### 裏通りは今後の資源になる

今は表通りだけが目立っているが、千保川沿いに裏通りや細い道などが見られ、これからの資源になると思います。表通りでは、助成金などが入っていないにもかかわらず、これだけの建物が残っているのは感動ものです。石置き屋根も1軒だけが、保存されている。

玄関先の石など、緑色凝灰岩などが使われて、大変おしゃれです。床下の通気もよく考えられており、100年以上もたせる工夫がいっぱいある。しかも、それぞれの家によって異なる工夫があり、どれも同じ町屋ではない。

### 金屋には他に無い独自の個性がある

玄関のしとみ戸などには、金屋独自の個性がある。私は、岩瀬や八尾の町並み修景に関わっているが、金屋にはそういう所とは異なる独自性を感じる。格子や袖壁などでも、よそとは微妙な違いがある。厚板のひさしを支える腕木は、県西部では水平だ



が東部では海老のように湾曲しているのだが、金屋には両方がある。金屋のひさしはこけら葺き風に見せているものがある。家の前には駒留めの金具がついている。一見すると同じ町屋に見えるが、実は似て非なるもので、それぞれが独自性を競っている。

近い将来に重伝建に選定されても、独自の文化を守り、テーマパーク化しないで、よそから来た人がこんな町で暮らしたいと思うような町づくりをしていただきたいと思います。

## NHKハイビジョン特集

## 「にっぽん微笑みの国の物語」

## 海の向こうに遺された江戸

前号で主題のテレビ番組を予告しましたが、皆さん見られたでしょうか？およそ半年あまりの期間をかけて何度も取材に来ていた事を知っていた私にとってはちょっと意外な内容でしたが、興味深い内容でもありました。見られなかった人の為に簡単にあらすじを書きましょう。

明治時代にエドワード・モースという米国人生物学者が、東京大学の招きで来日し教授を務めていました。彼は江戸期日本の生活用具に日本的な美と日本人の心を見出し、3万点もの民具を収集して、アメリカ東海岸セイラムにあるピーボディ・エセックス博物館へ寄贈し、今も収蔵・展示されている。

エドワード・モースは大森貝塚の発見者でもあり、後にピーボディ・エセックス博物館の館長も務め、「日本一日一日」「日本の住まい」などの著書がある。

ということで、海の向こうのピーボディ・エセックス



博物館に遺

番組の中で作られた高岡火鉢

された米国人視点の江戸文化から物語りは始まるが、ところで誇り高き職人達が集まって腕を磨き合う、そんな町が今もある、それは富山県高岡市、江戸時代の職人の心意気が受け継がれた鋳物の町であると、金屋町へ物語が展開していく。

そこからは、銅器問屋の駒澤義則さん、鋳物師の神初宗一郎さん、彫金師の佐野宏行さん、着色師の野阪好照さんが協力合って、駒澤家に伝わる昔の絵図を基に高岡火鉢の名品を再現して作り上げるという物語になります。

90分の番組で、そのうち約40分を高岡鋳物物語にあて、双型鋳物の製造工程が分かりやすく収められています。希望者にはビデオDVDをお貸しします、鋳物資料館に置いておきますので受付へ申し出ください。(電話28-6088)

## がんと治療しました

般若慎一郎



昨年4月に人間ドックを受診したのがきっかけでした。胃に怪しい陰があるとの指摘から、5月に胃カメラによる再検査をしました。胃は異常なしでしたが、たまたま食道にガンらしきものを発見してくれ、検査の為に粘膜を少々採取し、6月に悪性のガンであるとの検査結果が出て、手術することになりました。

極めて早期発見であり患部も小さかったので、手術と言っても内視鏡による手術です。9月上旬に手術して完治しましたが、入院も8日間で済みました。

親しい友人に医師が何人かいますが、普通は検査の対象にもしない食道ガンが偶然見つかったのがとても幸運で、しかも早期発見で開腹せず内視鏡手術で済んだことがまた幸運だったと言います。

## 時代は変化している

20年ほど前ならガンイコール死亡であり、現に何人かの友人が亡くなっています。ところが今は早期発見して治癒する時代が変わっており、実は俺もガンだったという人が周囲に何人もいます。内視鏡による手術も、昔は無かった新技術です。技術革新と、時代の変化を感じます。要は定期健診を欠かさないことが大事のようです。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 開催中！先進地視察研修報告展

場所：高岡市鋳物資料館第3展示室

期間：1月22日（日）～2月19日（日）

入場無料